

# 重なる層、映し出される風景



## 01\_高さの「層」

三面の壁には三種類の高さの違う窓が設置されている。低い窓では地面や川の流れへと視線が誘導される。中くらいの窓では木々や風の動きへと視線が誘導されることで木々の揺れる様子や風の流れるを感じる。高い窓では空や雲、鳥に視線が誘導され、見上げた時に広がる空の様子や飛ぶ鳥の動きを感じることができる。

異なる高さの窓が、見る人の姿勢や視点に合わせて異なる自然の表情を切り取ることで風景の層が重なり合う。この「層」の重なりが、時間や空間の流れを感じさせ、建築と自然が一体となった美しい空間を作り出す。

## 02\_時間の「層」

朝日により、朝の静けさとともに柔らかな光が空間に広がり、時間がゆっくりと始まる。昼、日差しが強くなり光と影が交錯することで、空間に動きと豊かな表情をもたらす。夜、夜の静けさとともに、昼とは異なる静謐な美しさを感じる。

同じ空間でも、時間の流れによって風景の「層」が入れ替わることで異なる層を体験できる。朝の光、昼の陰影、夜の静けさが、それぞれの時間帯で異なる風景の層を作り出し、空間にダイナミズムと変化をもたらす。

## 03\_視線の「層」

まず初めにこの建築に足を踏み入れたとき、視覚的に手前の空間が感じられる。次に窓を通して外の風景を見たとき、竹林や木々が視界に入り、自然と建物内とのつながりを感じる。このとき窓は手前の空間と奥の風景をつなげる中間の層として、内と外を橋渡しする役割を果たしている。そして見えた風景の奥には遠くの空や雲、飛ぶ鳥によって視覚的な広がりを感じる。

視線の奥行きにより、空間に「重なり」や「深み」が生まれる。手前から奥へと広がる視覚的な層が、空間に豊かな奥行きと動きをもたらす。

